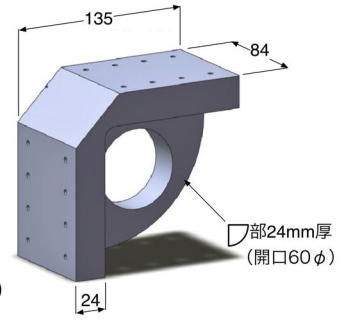
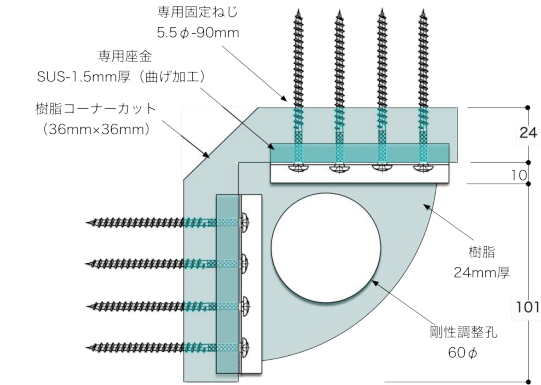
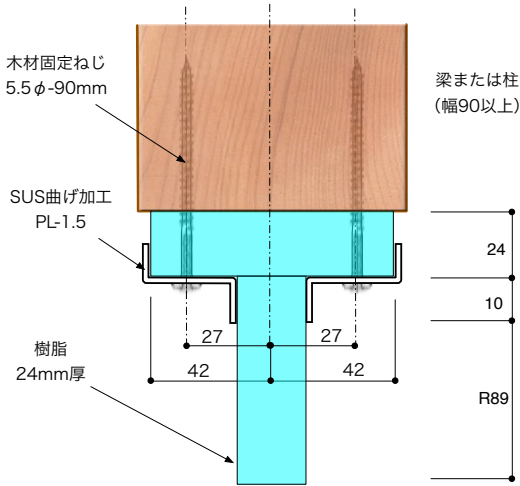


耐震リングの基本特性

異種構造体どうしを連結して一体化する場合、特に木造や軽量鉄骨造ではその大きな変形差に応じた連結法が求められる。下記は樹脂一体成形品の耐震リングを用いてあらゆる方向の外力に対して既存構造体を損傷させずに直交する部材を連結する補強工法である。

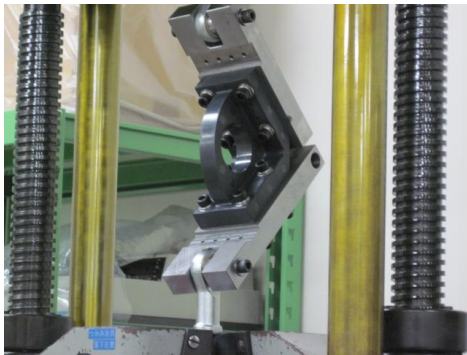


耐震リング姿図 (樹脂成形品)



耐震リングR10の固定と単純引張試験

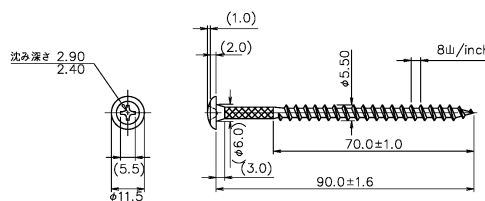
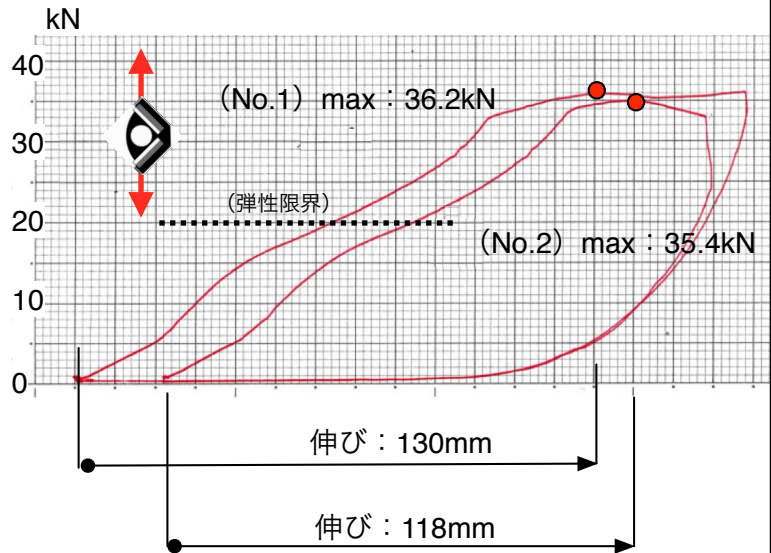
耐震リングの固定は専用の座金と木ねじを用いて行う。木ねじ1本あたりのせん断耐力 (スギ材) は5kNであり、耐震リングの一边で8本用いるので、最大40kNの固定部せん断耐力である (引き抜け耐力は64kN)。これに対し、耐震リングを単純引張したところ、最大35kN超の耐力があった。ただし耐震リングの弾性的挙動は20kN程度である。(試験の範囲で耐震リングは破断していない)



試験状況 (スターライト工業 (株) 栗東工場)



試験後の耐震リングR10



専用ねじの耐力
(E70スギ材に対して)
引き抜け耐力 8kN/本
せん断耐力 5kN/本
(山喜産業試験)